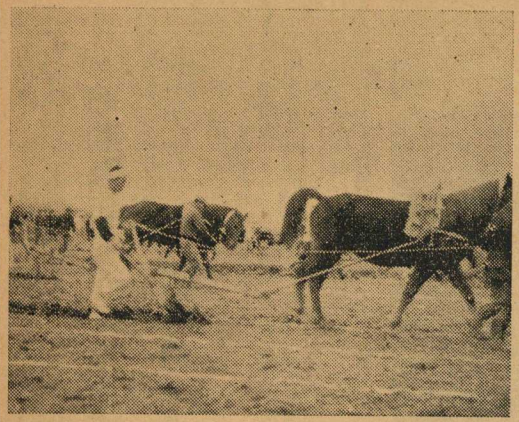
町政だより

発行所　福岡県田川郡方城町役場
発行人　中野実
【通第五十一号】
印刷所　冷牟田印刷合資会社

方城町財政白書

"赤字"を無くしてしまうまで
心を合せて頑張ろう

わが方城町は八月一日町制が施行され、郡下の雄町としての大方城町建設に邁進しつゝあることは、既に御承知の通りで、教育・文化・経済、特に植林については、将来の原野・山地の水田化並に産業開発の根本であるとして、新町建設計画の実現に努力中であります。



二十九年度決算に於ける赤字を相当解消して来ましたが、三十年度決算見込はまだ、約二六三万円（二八災事業国庫補助未済による分）の赤字となる財政状況におきまして、三十一年度の予算編成にあたっては、総ての消費的経費を極度に圧縮して、予算四、七〇九万六千円議決を得て執行中であります。

たまたま、昭和二十九年度に於て赤字を生じたる故を以て財政再建団体を国から指令され、目下再建計画に必死の努力を傾けています。

尚再建計画確認と共に、現行予算の再検討を必要とすることを覚悟せねばなりませんが、いずれにしても財政再建は、なまやさしい覚悟では出来ない事であります。

歳入の増収をはかる一方、歳出の抑制につとめ、町財政再建基本方針及び計画に十二分の御協力をお願い致す次第であります。

財建法の適用をうけましても、現町長の努力により着々と将来に於ける広範囲な山林資源の開発・肥沃な田畑の基礎に立ち、採掘される地下資源による収入の増大は教育の振興と相まって大方城町の将来に明るい光を与えてくれます。

町長の施政に信頼し、全町民打って一丸となり、もう一年辛棒することにより過去の赤字を解消し明日の輝かしい幸福を目指そうではありませんか。

更に伸びる奥ヶ畑林道

昭和三十年度まで一・三三七米の林道が開設され、現在山の中腹までトラックが登り、木材の搬出に役立って居ります。これも地元工事）も去る十月二十八日測量を終り、近く工事にかゝる予定になって居ります。

深く感謝致します。昭和三十一年度開設予定路線五三〇米（第五期

「無税の町」も"火の用心から"

家でも山でも焼いてしまえば後の祭

全国火災予防運動実施について

十一月二十六日から十二月二日まで一週間、火災多発期に対処し、全国一斉に火災予防運動が実施されます。火災の原因は日常生活に直結するものが多く、皆様の自覚と御協力を特にお願いします。全国の火災による損害は一日約一億円で、七〇件の火災が毎日どこかで起って、しかもその原因の九割以上が火気取扱いの不注意によるものです。いよいよ火災発生の多くなる時期となりますのでお互に充分注意される事をお願いします。

家だけでなく、山林も火災から守らねばなりません。山に入った時のタバコの吸い殻が、何百万、何千万円の財産を一瞬に失ってしまいます。

焼肥作りの火でも、野火・畦焼きでも、最後の一かけらまで火を見届けましょう。

殊に「無税の町」づくりを目指して頑張っている方城町として、全町民心を合して火事を防ぎましょう。

「備えあれば憂いなし」
「火事を出しては　先祖はすまぬ　隣り近所にやなおすまぬ」

次に、方城町消防団の陣容をご紹介致しましょう。

古門の野に幟はためく
十一月十三日 町競犁会

壮年の部

一等　春田（馬）原田　政幸
【郡大会成績一等一席】
〃　野添（〃）高崎　勝
【郡大会成績三等一席】
二等　〃（〃）佃　俊美
〃　浄万寺（牛）葛原　幸美
〃　迫（〃）原　富久
三等　野地（〃）永末　力
〃　長浦（〃）香月　国作
〃　西古門（馬）仲村　清治

青年の部

一等　瀬成二（馬）仲村　六助
二等　迫（牛）香月　光男
〃　長浦（〃）石橋　伝
〃　見六（馬）高津　驥重
〃　浄万寺（牛）中山　英長
三等　古門第一（馬）田丸　繁松
〃　西古門　高木きそえ
〃　久六（馬）久富かすみ
〃　瀬成二　田丸かすみ
〃　古門第一　田丸とせ子
三等　瀬成一（馬）榊　やちよ

少年の部

一等　野添（馬）高崎　義政
二等　見六（牛）皆川　章
〃　西古門（馬）仲村　春芳
〃　瀬成二（牛）竹下　一万
三等　新門（〃）松島　秀
〃　久六（〃）久富　日吉

婦人の部

一等　迫（牛）永末　俊子
二等　浄万寺（〃）中山ミツル
〃　瀬成二（馬）仲村　六助
〃　中組（牛）岩崎慶一郎
〃　新門（〃）花石　秀人
〃　見六（〃）永末　照秋

団体の部

優勝　迫農事組合
二位　古門農事組合
三位　長浦農事組合

【郡大会成績二等七席】
【郡大会成績三等八席】
【郡大会成績三等七席】

等級組合別生馬別　氏名

団防消町城方

団長　稲富治郎
本部長　白石蔵太郎
副団長　松島政夫、白石藤吉、深川治郎

消防長　倉石文夫
消防長付　中野実、今水昭、岡本義春

- 第一分団（一〇名）　分団長　杉原安男　部長　鉄谷忠雄　〃　白石藤雄
  - 第一班（一〇名）　稲井長大郎
  - 第二班（一〇名）　近藤次男
  - 第三班（一〇名）　石橋久
  - 第四班（一〇名）　高木谷蔵
  - 第五班（一〇名）　杉本盛夫
  - 第六班（一〇名）　木戸克己
  - （八幡町、後谷、前村、犬星、古門、山の手、矢久保）
- 第二分団（五名）　分団長　永末威雄　部長　蒲田光夫
  - 第一班（五名）　香月一義
  - 第二班（五名）　永末元信
  - 第三班（一〇名）　中山光文
  - 第四班（五名）　稲富明
  - 第五班（五名）　堀江一夫
  - （弁城全域）
- 第三分団（一〇名）　分団長　秋野進　部長　中村孝之
  - 第一班（八名）　渡辺義信
  - 第二班（八名）　川端庄市
  - 第三班（八名）　久松勝重
  - 第四班（六名）　永岡巌
  - （方城鉱業所）
- 第四分団（一〇名）　分団長　高津順　部長　佃光則　〃　松島直
  - 第一班（二〇名）　川島朝夫
  - 第二班（二〇名）　赤熊照雄
  - 第三班（二〇名）　青馬虎雄
  - （長浦、広谷、見六、丸山、新門、野添、中原）

部長以上　一五名
班長以下一八〇名
総員　一九五名

60名　30名　30名　60名